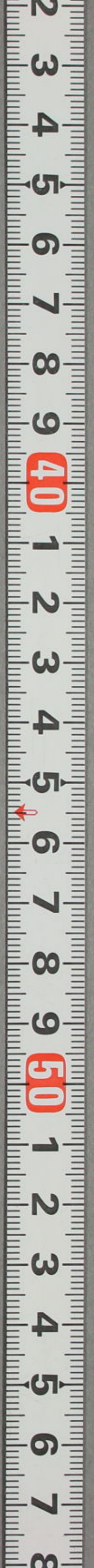




非  
鑑



口 9  
15511  
16-1



9  
1551  
16-1

比賣鑑序



易曰家人利女自解之者曰利在女正女正



則家道正矣是故詩首關雎書美釐降禮謹  
大昏夫女之不可不正業已如是而間有不  
正者何耶不教也教之若何古人有書教法  
孔昭然其出於中華者我婦女不得而讀是  
以本邦人或為譯之或別自撰並行于世  
必當使姆有以授之所以成女正也雖然其

臣等謹

書謂之教法全備則未也爰有一書名曰此  
曹鑑伏江逸士仲文敬甫著之以為家訓未  
及於人敬甫余之所敬而執文也故獲幸一  
閱之其作大槩法於小學之書以推衍之有  
述言有紀行凡三十有餘卷其文則用國字  
且多引倭歌歌俾婦女易曉通感發也其事  
則無倭漢無古今與此相干涉者希不擇而  
取焉欲令讀者博覽多識而隨所遇有取法

也詳審精密親切著明味曾見有女訓之臻  
茲者可謂備矣弄瓦室合甃之家皆知必據  
此以垂教則疇患無所謂在女正之利哉最  
可以嘉尚焉余又有思此書若徒知為房閨  
鑑而不知為外庭之珍則可惜矣男女豈有  
二性若彼女行之善而深感入焉固有廉頑  
夫立懦夫况於碩士畸人負臣順子乎其將  
必曰女且能是我丈夫也詎止於此感發奮

激更進濶歩決兵厥益不亦饒乎教人者其  
念之一日敬甫使余加鄙語於篇端余乃欲  
略抒其所以作之之意則既具乎自序非可  
復言故第稱述此書於正家之道將大有補  
以擬書題耳矣

貞享丁卯冬十一月

伊蒿子 滕臧書

比賣鑑卷之一

序

人の人なり道ありおあり中よまぬ男女と陰陽は氣と  
ふ天比のらうわぬさうまうまふおさぬあはゆと  
いじまぬとつじよぬしてまぬらぬとつじら  
能のいなりそのみぬとつじらぬとつじらぬとつ  
やんぬれおのりおのりぬとつじらぬとつじらぬと  
やんぬれおのりおのりぬとつじらぬとつじらぬと  
まふおのりおのりぬとつじらぬとつじらぬとつ  
まふおのりおのりぬとつじらぬとつじらぬとつ

臣鑑卷一



も一ひより母のふとむらとあてしむいりもふいり  
 ありよまうらるるくあまのほむらうらもてもほれては  
 せうねとそかふらうらあまうらてふらうら船じらの  
 ないこと若衆の食いひらねて二もは君たうもなり君  
 とあふらうらあふらうらひらうらうらひらうらうらうらうら  
 ぬらあまふらうらたあまあひたふらうらて君はあまのうら  
 えむいのもふらうらひらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 貴賤の禮うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ちせれ中たさくしうらうらて人あまうらうらうらうらうらうら  
 二は夫婦のかりたて女たれ安らおたれたてうけ

あらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 かつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ものうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 まてうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 たらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 おかあまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら





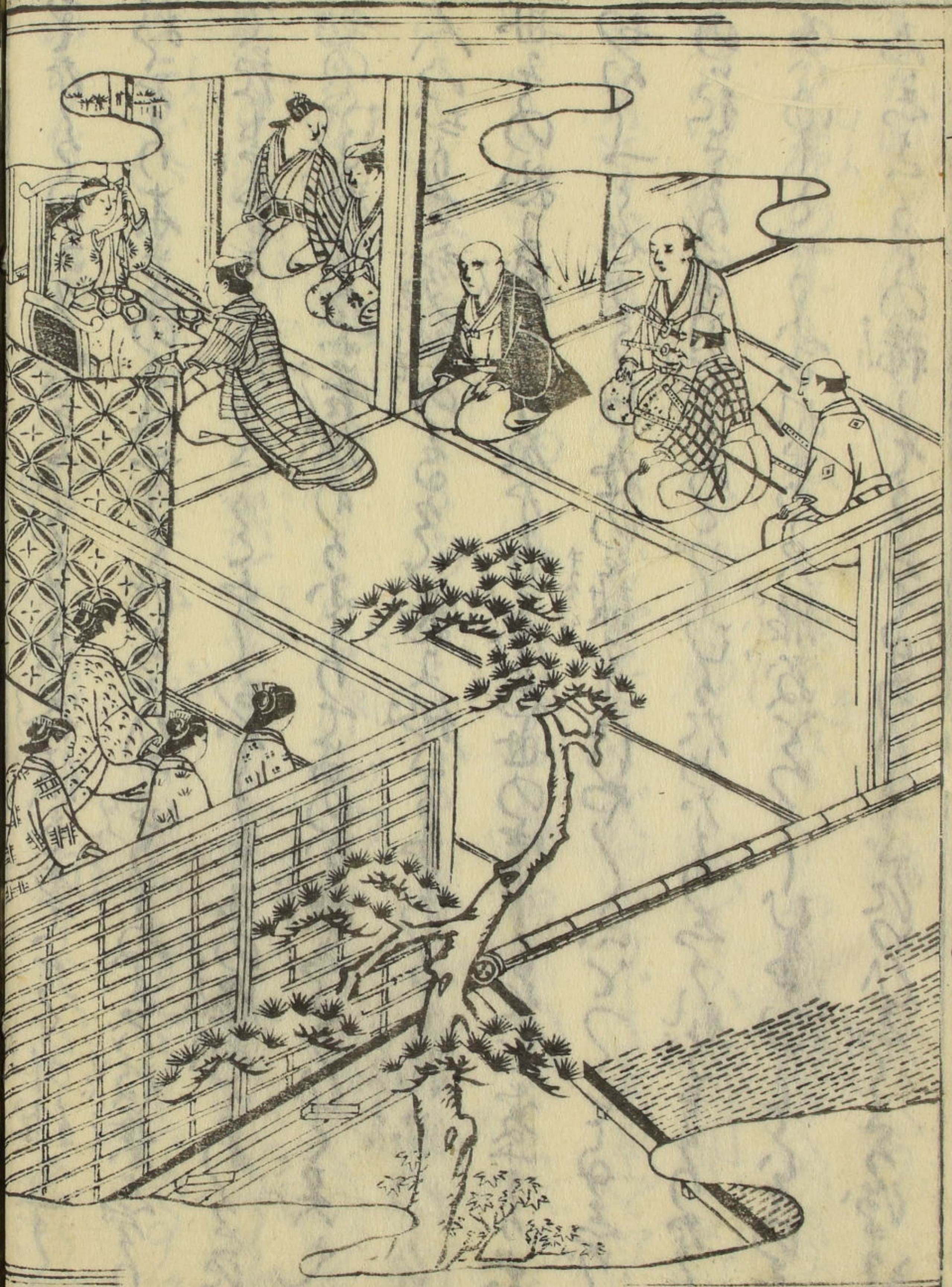
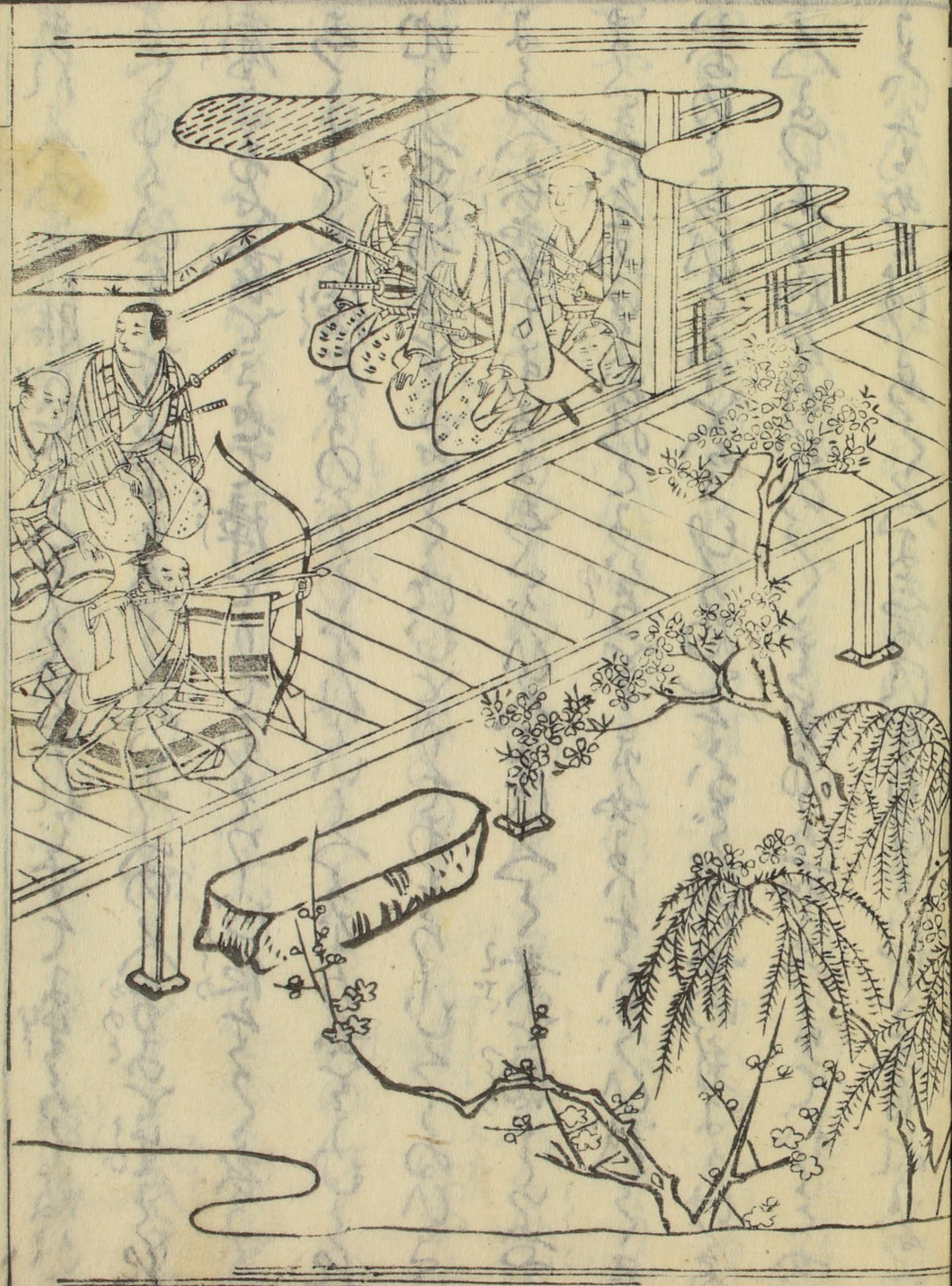




一徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ

一徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ  
 る徳ありてあつた徳あり未だなく徳ありたゞ一徳とあつてあ





され人のみ、胎うに生なむるものか、しなすて、まはらう、くねい、よ  
 く、いふひ、く、く、く、ま、り、く、れ、い、あ、の、人、男おのこと、生う、ま、り、た  
 庭にわよ、あ、せ、裳もと、こ、せ、て、障たがと、り、て、あ、そ、う、い、じ、後う、を、う、く、夜よ、う、ら、  
 ろ、く、し、て、ま、徳とく、た、ま、の、ご、く、な、れ、い、く、ら、な、り、女めと、い、む、と、死し、に  
 比ひ、ま、よ、せ、じ、し、ま、い、ま、い、ま、い、は、じ、と、り、て、あ、そ、う、い、じ、く、あ、い、ま、  
 よ、め、人、夜よ、裳も、と、あ、り、う、ま、い、う、ま、い、い、ん、よ、は、は、く、く、業わざ、と、勤つと、ま、ら、う、あ、  
 ま、い、徳とく、を、の、は、ま、あ、れ、い、ま、い、ま、い、う、く、ま、女め、よ、い、ま、か、ら、い、は、い、死し、と、く、ら  
 八や、お、の、こ、あ、び、く、か、と、か、い、ひ、の、地ぢ、と、ま、か、ら、い、ひ、女め、の、あ、い、う、け、あ  
 人ひと、よ、う、あ、ら、地ぢ、が、り、あ、の、い、く、ま、い、め、ゆ、う、あ、い、う、う、り、て、死し、と、ま、  
 こ、い、ま、あ、い、は、い、あ、い、く、い、ま、い、あ、い、な、り、い、じ、い、う、い、く、三さん、百ひゃく、た、い、ち、が、ら、  
 し、な、い、す、ら、財さい、は、ま、あ、れ、い、ま、い、ま、い、ま、い、桑くわ、の、ゆ、ま、い、ま、い、乃な、夫つま、と、り、て、死し、に、た、い、  
 方かた、を、持も、た、ら、い、う、の、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ぬ、の、か、い、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ま、あ、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 て、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ら、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 は、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 さ、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 死し、ら、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

し、な、い、す、ら、財さい、は、ま、あ、れ、い、ま、い、ま、い、ま、い、桑くわ、の、ゆ、ま、い、ま、い、乃な、夫つま、と、り、て、死し、に、た、い、  
 方かた、を、持も、た、ら、い、う、の、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ぬ、の、か、い、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ま、あ、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 て、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ら、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 は、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 さ、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
 死し、ら、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、





養の列女傳女流がどうあつて九に十の比の事ありと  
 色ついでとて一々すなりあつたひうしついでとて一  
 高人のあつてゆるげ糸柄れそと物かどつたかこつてさ  
 らとて一は二に十とてめつり女に二十とてあつたか  
 まりぞつたりの男に十六女に十の比とていひあつた  
 とつたかといひつらつとて件嫁とつひつらつたかとい  
 のつたか女子許嫁とつたかいと物とつたかといつたか  
 うつたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 うつたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 うつたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 うつたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた

されば成人の事ありてはさかぬをいひつたかといつた  
 つかよとて人の事ありてはさかぬをいひつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた  
 つたかといつたかといつたか許嫁とつたかといつた



あはれなる御心なほ御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては

あはれなる御心なほ御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては

あはれなる御心なほ御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては  
御座りては御座りては御座りては









さしあはしとてつらさへもさへいふは姑息の事ならずんば  
かゝるはなればなりかてそのみればあはしなつてゆく  
おぼやうもの世はまじしとてあつたあつたものなること  
あつたあつたはつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

本朝の事なりびんあまよ一郡の事と小治政の事なり  
人とならぬをさげが事とてびんてりあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

文字の事なりくちいふ小正靜とてめづりなきつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

まるせなるらあきくびきとて致しつゝ心んを辱らりて  
 老しつてはくむんからぬなりげある貞がはも致れり  
 かり孝愛く父母習括と孝養一子孫と慕老するに和睦  
 くらむらむじつかり兄弟あつたそのなり物類の中よ  
 くまはよするたに候質らんつまわくまかかなるなり  
 女中のまもはつらむらびりばいふつらむらむら  
 りんあどおむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 申はよむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 申むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 且貞のまもはつらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 女中のまもはつらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 父母もろも女除まむらむらむらむらむらむらむらむら  
 もむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 りあむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 致らむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 られむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 りむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 也徳百の根むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 録かくむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

なふいあり(蓋)みとどかり時隣は別の庵丁すうらんとそ  
 の母よあしらのいぢどくまうわいと母たうあて海(かんぢ)のあつらん  
 たりぞとちかそののむしつうりそ一はのめと梅(うめ)てひそ  
 りふおのころ肉(うま)とひのせんまよあてし海(うみ)のあつらん  
 とちかふたとたのまもつらなれあつる一  
 孔(くちら)のあつらん梅(うめ)のひらつてかきひくあひま一と人のな性(さが)  
 うくふおれと命(いのち)おつらとて野人(ひと)九人のうらりたつら景(かげ)ふ  
 して魚(うい)びとてせうりあやうあもあつるもの法(は)濁(にご)りて  
 けしつうのいせありつらとてつらありつらとてつらとてつらとて  
 つらとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとて  
 そこむくのうらりあつらつてつらとてつらとてつらとてつらとて  
 てうらり入つてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとてつらとて  
 よ美(うつく)ちと類(るい)とて





内々の此父見たりかよをとりて除きたりてはうなりま  
 きのすくぶるべしと業のらまをとりてとまふとゆりた  
 をしむのあきらめむとてなすべし  
 孔あれのまうくれとまふびんばびんば事ありしときと続  
 儀いあつとむしつらうやにきくならまのりてきづくも  
 ねり抱づくぶら抱たりゆなれ後まふびんばものハは男  
 とけいそし事をまかす人便那はまかどくびんばま  
 ころひまふむしひんばまふまふまふまふまふまふ  
 りしびりたれとのあむまふまふまふまふまふまふまふ  
 色やへ入らぬのまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 ののし教つてと続のまふまふまふまふまふまふまふ  
 の背減つてもたれまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 後家の礼式をくらぬまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 え根まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 蘇れまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

なしひうもほもろくごりもとらちくもかろく事あへん事六  
 のぞいそあひひをさくまもあつひらぐらひらつらまのおま  
 えり人輿車かどのさりま家たれおのがく家凍かどのほこの  
 意よりせせらりくかひつひつらあつら女子に女礼よひ〇と  
 ねもくつりしはくくあつあつたり女の藤終に夜食成  
 湘に礼成とらりか大やちてせしうとたれとが書茶  
 ふあともいよそのまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 かどかかたえちりももももももももももももももももも  
 ひずりてふかいさのまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 かりあひしとらりかすけいし琴茶書魚のたぐひのまのま

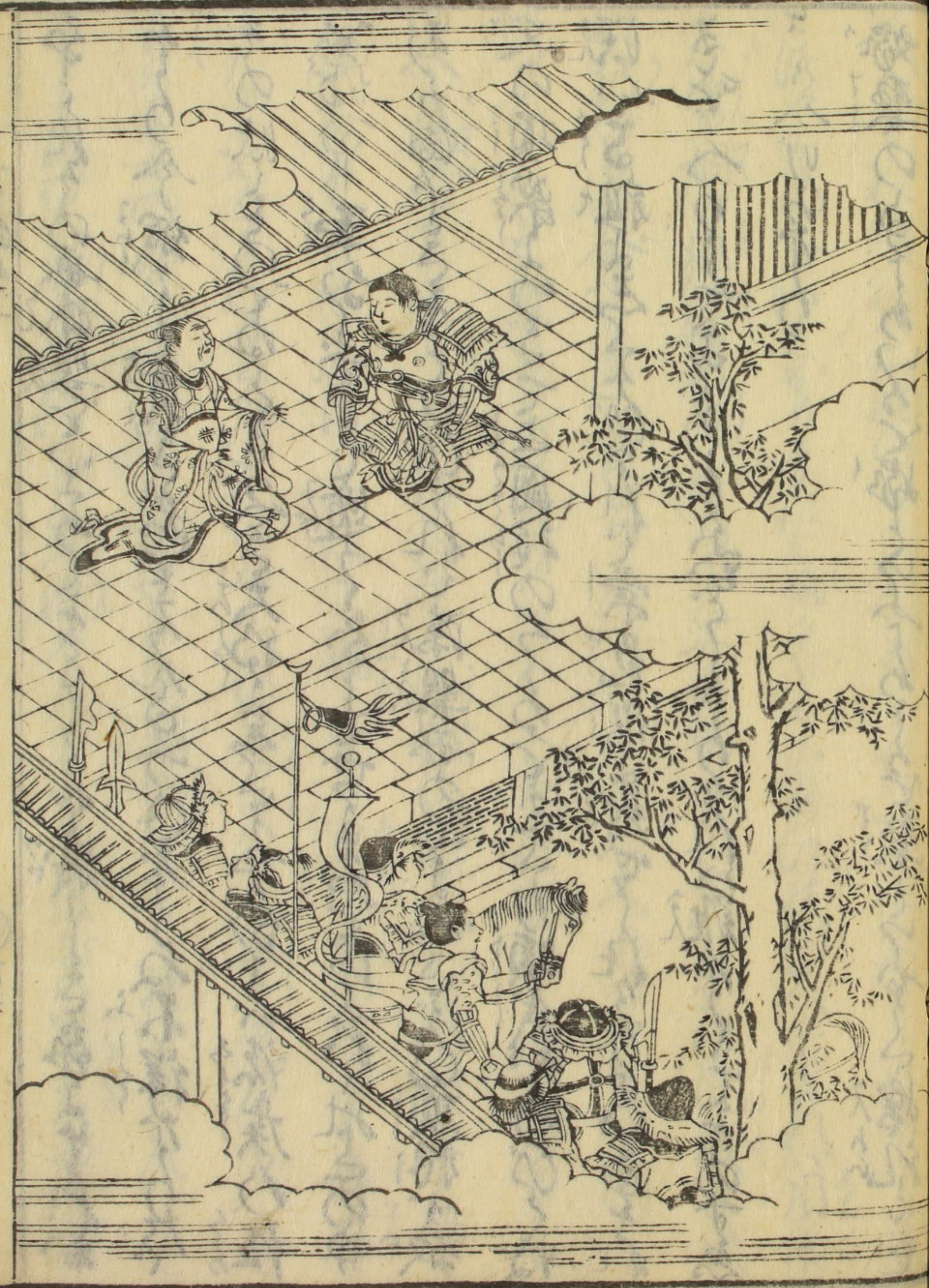
〇く事その由ちりし書に益とひい文なれすくこころ  
 ぶあわいころもかかりぬもへいしむかきひのまのまもも  
 ばくもくひくまふもくもくもくもくもくもくもくもくもくも  
 くとりてそのひらぶちりつらつらつらつらつらつらつらつら  
 へんもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも  
 くとりてそのひらぶちりつらつらつらつらつらつらつらつら  
 へんもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも  
 くとりてそのひらぶちりつらつらつらつらつらつらつらつら  
 へんもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも  
 くとりてそのひらぶちりつらつらつらつらつらつらつらつら  
 へんもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも

五言古詩

五言古詩



女男をさくはくはなまよとておたのしみもえうせてま  
 じらぬかふとてまじらぬまよのちのしにゆるまかり  
 けんかしてせむさすみまうらぬをせう母おろくみあま  
 らなむとのちのちひてそのおほよりのゆるさすまじま  
 りよれさうくまらぬまよのちのちのちのちのちのち  
 るくちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
 ひし回極が母とてまじらぬまよのちのちのちのちのち  
 かり文伯が母とてまじらぬまよのちのちのちのちのち  
 又溪の陳嬰とてまじらぬまよのちのちのちのちのち  
 二百れびしや集りて陳嬰とまよたてて軍とてまじらぬまよ







てまするたよあひびらりて清らなりいよまひんごよあめのか  
そのらんちまは我ら海なる島なりいづれに人おぼはぬ人  
志がらんばうはまうらふもては女いたるもやうもたぐや  
よまうひあうとちうちよはうちかたなりとふすらうらうに  
ゆもまひて利歎よおりのひつこもまるとよのひつこひのひすま  
らうくしうかうらふのひがくもや

溪の王者がしむのまゆ人倫の大洞夫妻れさけなり世俗の  
嫁娶ふらうとくもしゆまう人の父母らうたとくどてふあり  
とてゆく教化わうらうらうて民ややくとくも男女すまわも  
ゆらうとありまひまう人のあやうらうたとくらうゆのよらう教化

わうらうあひびて人の命もややく義なりとスハうらうちよまひのあひあ  
うらうらう又男女あひまうらうまゆとていもてくも事と大やうすま  
とくらうゆなり初らうらうかうらうはかひもて時らうらう事らうらうは  
よ成らう男女の性なりとく成らやまひつこ成らあやうらうあうとくらう  
すらうらうらうらうもまうあひまうらう人すうらうたう人あうらうら  
あうらうらうとくわのわの目らう清らうあまの先祖りれはうも男女  
むらうらうらうは家とくひすてよまうらうまはね月とあひて  
この性やかひなりてけうやうらうらうらうらうらう  
いあうらうらうのあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
親遠しとらひらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう



そのらよしとて海<sup>うみ</sup>がなもあどじうく<sup>く</sup>が宗<sup>しゆ</sup>藩<sup>はん</sup>のちとこもは  
 ちのひにむく母<sup>はは</sup>がむしむせよなんぢがけくしむの始<sup>はじ</sup>快<sup>たい</sup>つ<sup>つ</sup>のあ  
 ちてくしむじとあひまきくふるた文<sup>ぶん</sup>の命<sup>いのち</sup>す<sup>す</sup>く<sup>く</sup>もあひま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>よう<sup>よう</sup>  
 しく<sup>く</sup>く<sup>く</sup>風<sup>かぜ</sup>よあ<sup>あ</sup>む<sup>む</sup>か<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>してま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の命<sup>いのち</sup>よそし<sup>し</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>が  
 く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>  
 け<sup>け</sup>ふ<sup>ふ</sup>か<sup>か</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>國<sup>くに</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>に<sup>に</sup>た<sup>た</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>か<sup>か</sup>う<sup>う</sup>れ<sup>れ</sup>その<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>た<sup>た</sup>  
 門<sup>かど</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ま<sup>ま</sup>ど<sup>ど</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>大<sup>おほ</sup>多<sup>た</sup>く<sup>く</sup>け<sup>け</sup>文<sup>ぶん</sup>母<sup>はは</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>び  
 つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 よ<sup>よ</sup>ち<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>が<sup>が</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 後<sup>のち</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 り<sup>り</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>

婦<sup>めかけ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 家<sup>いへ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 かり<sup>かり</sup>ひ<sup>ひ</sup>り<sup>り</sup>番<sup>ばん</sup>れ<sup>れ</sup>庚<sup>かう</sup>亥<sup>がい</sup>家<sup>け</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 若<sup>わかしほ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 して<sup>して</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 ち<sup>ち</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 して<sup>して</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 して<sup>して</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>  
 して<sup>して</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>



なひけく人のちれおもつてまはくくたはしあへるもたあ  
まのしほららまひまかんまぬ一節せんがあらあつて  
なつかりとるまはかりまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる

まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる

まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる  
まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる

まはつるまはつるまはつるまはつるまはつる

比賣鑑卷中一

比賣の監卷之二

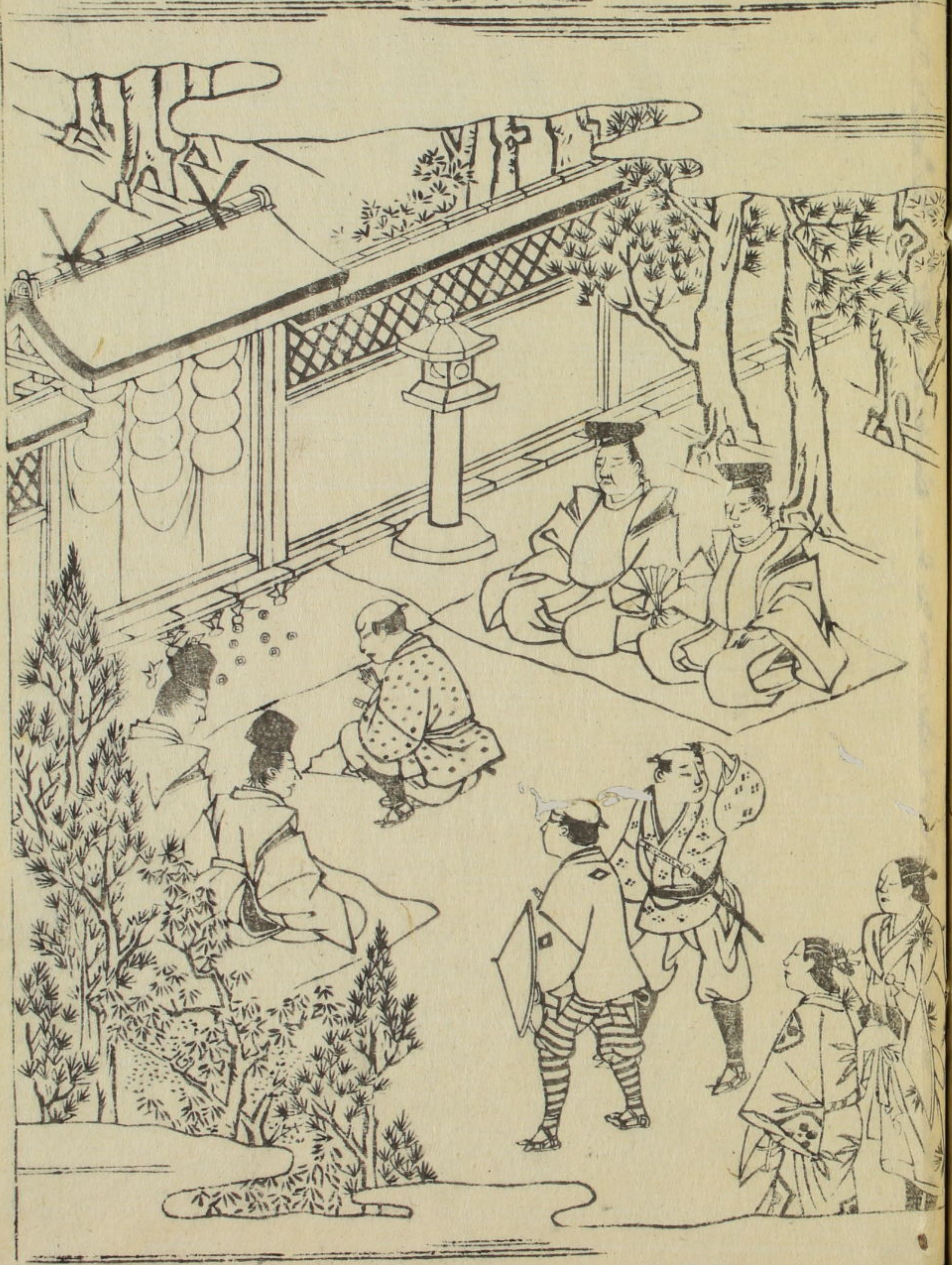
述言第二

世英よふり父母ははくよりのきくときくよめおはし  
もるなとのぶすかららふ孝明傳の父まれ親の越え  
孝のふもふりもひとひのふもふら父母とて本とられ  
男坊もおの事とあらぶとをり

世の中れ人乃たうとてまよれもあへてはらりくまて若ら  
孝のよるふらぬらも思ふ孝よりもおもひりあへるふ今  
若と百りれ源くふ若とめ刑の極りとするこそれ天地  
もあてせしむるふらぬらも思ふ人ふまこつあは儀



くだりありしにけしきもあはれはなむさしむのくはかみなり  
 ひもたふしあて女徳たかをなむしめしむもふかむ比のちいこ  
 たりて比の残よきしむかひのむすはふりちちあはれ天  
 りりあひみればりて比の思れなむかひの涙りなり人  
 らしと筑つせんともむかひて父母ともかひひきしこてあを  
 けくしむかひのあひしむかひ人かひあひむかひのあひも  
 し父母のむかひのあひむかひのあひむかひのあひむかひ  
 たりそのつらむかひかひのあひむかひのあひむかひのあひ  
 ぬしむかひのあひむかひのあひむかひのあひむかひのあひ  
 らむかひのあひむかひのあひむかひのあひむかひのあひ



女鑑卷二





































一 須 知 之 事 凡 欲 求 道 者 須 先 求 心 之 正 也

心 正 則 道 自 見 矣 夫 心 之 正 者 何 也

曰 心 之 正 者 謂 其 不 動 也 夫 心 之 動 者 何 也

曰 心 之 動 者 謂 其 有 欲 也 夫 欲 之 動 者 何 也

曰 欲 之 動 者 謂 其 有 惑 也 夫 惑 之 動 者 何 也

曰 惑 之 動 者 謂 其 有 亂 也 夫 亂 之 動 者 何 也

曰 亂 之 動 者 謂 其 有 昏 也 夫 昏 之 動 者 何 也

曰 昏 之 動 者 謂 其 有 迷 也 夫 迷 之 動 者 何 也

曰 迷 之 動 者 謂 其 有 妄 也 夫 妄 之 動 者 何 也

曰 妄 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也

曰 詐 之 動 者 謂 其 有 詐 也 夫 詐 之 動 者 何 也





Handwritten Japanese text in cursive style, spanning across the gutter of the book. The text is dense and fills most of the page area.

